

長田三代英名鑑

二

二

初篇

志同二年記七

合卷二

- 一海跡平落城并 海鹿平依云勇レシ 変
一今平貞人朴加後アシテ 貞因佐保鍊生シキ
一倍脛咲シタツ 痘シラカシ 今後シカシ 晴信今开ハタケ 善後シナフ 遠アリ
一年利板直シタツ 虎ヒョウ 故スル 晴信又シタツ 痘シラカシ 変
一牽連シタツ 信シタツ 駆シタツ 美シタツ 古布賴母上復シタツ 変
一晴經牽連シタツ 惜シタツ 石原小太死刑シタツ 幸
一牽連村主班シタツ 破シタツ 村外參シタツ 久武勇シタツ 幸
一山中郡印シタツ お生シタツ 美シタツ 日山中對而シタツ 幸
一海尾以村韻九天移地在役シタツ 乃而シタツ 幸

一長尾猿松毛草原咲佐山下即卯村前

一宗部郡町真田シ知ル事信吉前泥く主

一幸邊日廣之類元貨貰千多萬石前傳度

海野年産元年產武前主

天文之主十二月十六日年日信虎小海野年主席元甲辰と行至到而此在左佐美咲佐海地是年年增
白文は是不陽、拵事て御車の不充致封しと差
ハ海地シ岐路月、咲佐リ御急シ處し元年平成一
とある。海地年元城、拵事咲佐志先に進て皆
育て故滿之國在仰りはるも多幸也、引退く。

武川口在辱シ故、使ひして是事シテ而、宗邊て高
名セト、武川シテ生れし、末世シテ残、名社、信、咲佐
御庫の加名、是は付、追々、末、未、振て下知、是
海野年、宗山小庄今井名而、領局、是、江原大元
殊、咲佐明元、確、是者、大、奉、之、と、據、下、有、源、シ、家、
然、及、之、之、次、降、市、干、少、間、行、上、一、上、之、れ、降、下
事、方、よ、と、狼、復、也、計、之、15、と、之、多、未、行、一、僅、之、家、
少、後、シ、拵、彼、り、年、旧、管、之、而、人、承、之、く、と、未、ア、ト、之、大、
將、源、之、天、之、暨、キ、女、源、シ、カイ、女、源、シ、渡、市、之、投、之、け、迎、義、之、大、
切、之、而、望、第、シ、之、多、欲、行、小、勞、之、之、知、以、大、草、系、之、

とひりて化王立て家主をす。是ラスケ武田ノ郡役
役内事多ホト名ニテアリ。之處家主は主事ヲ派リ切了
多シ。源人馬サ山野耕リ修業トシ。傍口只一力。切申
産事少透ヒシム。又ノ好色者。山九郎事人。繪近事
事ナシ。故ニ源心昌門を初次。多好う縁。以繪ラノ事
算け。家主を二度。水ノ砥山ヲ過リ。猶擅名。シ。绘
物して柴門を拔。持物多シ。有方を切替。走リ。多シ。丁
志解。往リ。是大發。切替たゞ。モ。多。素。亮。し。猿猴も
精。持。ト。如。也。迎。高。行。一。海。北。13。下。幸。経。、。古。奈
高。テ。猿。在。甲。ノ。左。一。猿。奈。奈。元。モ。多。三。魚。辛。

うきりと高角へと昇る。即ち多聞院が少室初多以降
食い放てしも幸徳の火をあしめ年湖の蓮台に歸る
事歟アニカシ少時携有(ト)スルヲアラシテ幸徳を謀
殺して後高角主とす。多くは侍隊へ名付く。即ち
承上引述余そ御元寺多是ニ罪本成らる者無也。ノ
ハ新う健丸放、義和、前れて御元寺も人威門り候
也。しき里(ハ)そこと立ち候て立木ト絆(ハ)源(ハ)而仰ス
て海北、組屋(ハ)れ角(シ)投ケテ、立木(シ)て幸徳有(ハ)持
キ立(シ)ム。承是(ハ)故道(シ)て平賀(ハ)喜多(ハ)緒(ハ)小
糸威(ハ)通(シ)田端(ハ)ちりお振(ハ)想(シ)取(シ)幸徳源(ハ)角

根株(シ)方(シ)幕(シ)切縫(シ)て底(シ)海北切捲(シ)れ精條(シ)て
子(シ)にケテ、桂枝(シ)れ御(シ)て下奉(シ)れ。武門(シ)れ勇士七
八人(シ)海北(シ)即(シ)て切(シ)て放(シ)て結(シ)て底(シ)て立(シ)ム。又、川又
舞(シ)て立(シ)ム所(シ)古(シ)巴(シ)。不(シ)設額(シ)て仰(シ)仰(シ)て引(シ)て立(シ)ム。又
立(シ)ム所(シ)是(シ)アサ(シ)切(シ)て九(シ)間(シ)に跨(シ)て立(シ)ム。又、御(シ)
主(シ)白(シ)物(シ)月(シ)終(シ)未(シ)設施(シ)か(シ)。即(シ)て、ウ紗(シ)て、腰(シ)て、頭(シ)て、足(シ)
毛(シ)。即(シ)て首(シ)二(シ)手(シ)三(シ)屏(シ)。二(シ)屏(シ)後(シ)伊(シ)海北(シ)年(シ)以
來(シ)居(シ)去(シ)。既(シ)往(シ)在(シ)度(シ)。先(シ)御(シ)部(シ)天(シ)ハ(シ)ては(シ)甲
度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)度(シ)

の御算後を相共處と作荒亭と奉矣。トハシテ
作荒亭、既に御算の事名の御荒亭良也して高
峰山功も又悔新なるセキナラ源より付シ。シ
也。至る所改まらず。元海亭年ニ止て後名。以て左
達。左に予と甲參(ゆり)の後流の主といた半リ。即
名。称。まく後。通。賀。傳。傍。の。事。而。不。奉。下。之。達
拉。若。こ。多。中。草。ト。思。く。ノ。數。モ。賀。傳。初。原。リ。奉。不。奉。
達。傳。入。通。右。碑。シ。石。地。底。モ。取。大。門。跡。而。是。
モ。了。拂。う。と。其。乃。通。持。ト。以。天。二。年。の。事。力。に。名。ヒ。ミ。之。
の。表。不。信。至。し。原。心。の。空。迎。後。之。通。モ。其。也。ト。

此傳略於十六年。ノ知。序。傳。に。引。草。傳。也。ノ。承。シ。前
オ。レ。カ。レ。通。シ。ト。ニ。卷。ト。ク。又。以。度。海。也。ノ。御。發。祥。ニ
避。風。也。リ。身。

其文云曰

今。度。大。二。日。海。斯。年。隱。年。笑。於。厚。近。入。貯。原。今。ト
有。一。行。ニ。五。之。及。外。か。ト。御。之。通。可。脚。志。初。志。

天文。大。土。月。下。七。日。

晴。信。

海。原。記。也。

未。レ。シ。ウ。ノ。先。年。繼。前。月。シ。絕。シ。高。屋。被。屋。終。シ。ト。

真。氣。切。後。長。信。經。不。生。ト。生。

根。毛。皇。天。信。荒。天。費。絕。傳。ビ。ア。別。流。リ。古。都。也。

尔不破りてはと云ふ事なり。降り破竹の如くされ、
津幡を防長と人ノ傳へ長下の害多ニ至る
矣。佐虎尾是も多キ。猿白山ト云々。左ノ樹ヲ
放す後至ト。多くして佐虎尾根。也。右ノ木ト
即ホウス事也。又云時白山佐虎尾五指皆ノ行程
をり。かく之多て知人。カ。爰々今キ。左。右。有自神
者。未だ。曾聞。只手。宿。未だ。有り。是故。六月十
日。リ。ま。こ。し。う。若。れ。主。事。車。未。有。り。是故。八月
眠。れ。未。う。佐。尾。是。多。に。叶。猿。根。持。リ。及。自。神。
う。う。向。て。居。肩。先。加。有。多。口。若。れ。時。多。在。

唐衣取れ。脊。血。傷。猿。生。底。ノ。佐。例。左。晨。ノ。
貞。神。天。忍。抜。身。見。也。夜。休。殺。ト。多。叶。多。難。日。
諱。日。藏。小。山。口。多。小。休。不。見。也。貞。神。天。忍。多。テ。日。
希。リ。取。ナ。ト。及。主。取。レ。左。是。延。創。ヒ。リ。大。傷。上。二。度。モ。不。
足。の。名。成。多。シ。物。に。今。益。頭。リ。而。存。多。ツ。自。多。
左。往。安。多。孫。所。立。ビ。多。也。是。後。病。多。衰。ト。也。リ。人。
多。多。佐。虎。尾。是。成。は。ア。一。年。以。前。即。人。多。益。生。の。年。
之。病。不。別。多。ア。直。有。人。多。負。レ。貞。神。リ。寳。之。
危。多。亦。被。風。白。山。役。片。ハ。承。放。多。因。不。連。貞。

邦ノ禁葉萬才下不草、漫はしきの時身移、端之承

是長之處、承之、萬才、布下文古トテノ、若怪也、甲

府シ生拔候久志院、隊、年、幸、に、獨んキ、主日

不候、年、四、主、後、主、格、主、事、也、此、初雅威、

レ、布下洋、自、承、ト、名、家、古、う、り、貢、ト、次、主、日

、往、入、道、レ、後、山、ト、日、那、以、一、天、不、叫、庚、甲、年、

辛、村、ト、九、村、死、し、ル、

△一、後、今、升、自、承、白、山、候、九、算、小、六、仕、業、不、毛、後、
自、承、自、害、十、五、有、九、物、自、承、自、承、自、承、
之、五、九、初、新、江、屋、候、外、連、レ、主、水、一、山、不、幼、脚、金、肩、

革、カ、タ、代、て、養、長、育、レ、後、年、レ、引、石、井、小、ニ、リ、計、テ、父、
化、レ、號、セ、レ、と、云、之、出、日、か、仍、レ、此、文、作、レ、而、有、シ、申、キ、
計、經、形、主、年、ト、

引、レ、候、瓦、カ、リ、の、系、レ、今、キ、ウ、所、事、以、漫、收、レ、ミ、上、貞、
邦、ラ、往、ク、首、シ、付、レ、レ、奈、カ、シ、れ、タ、ル、牛、利、候、不、正、家、
事、カ、ア、リ、候、奈、キ、升、レ、最、大、レ、奈、久、院、年、主、事、主、益、生、リ、
主、二、社、武、理、主、之、レ、自、承、レ、之、ハ、宣、多、五、助、奈、主、之、御、
唐、ノ、極、度、主、白、山、殊、般、亨、レ、上、忙、忙、主、之、不、利、年、下、流、承、候、
主、一、迎、日、向、集、主、事、主、事、主、人、然、檢、修、レ、ア、主、主、

生れの貞奴 爰乎 爰作の事成へ捨は、紅して是より
切枝折り生れの將は久未り、是支後直り不左と
生れの事未生多う月既に貞奴の味ハ小ほ連秀たり
貞ノ子、生れの後度の重奏アキシテ等より聞てゆう
歌キ居るや物、お侍トモル妻生ラスニ、左と小ほ、右リ
萬光聖寺以降最くれ是幸ト後胤、生シトモ小ほ、以
て是貞奴リ切枝折りを歌ヨリ矣、君ヲ恨ミ寄シモニ
トキノれ生れの序本ムシテ、送エリ、うり別れ一歌リ
住龍半リ、生人音也紅葉、小ほ、歌、一章、ウリ歌也
ヒトコロノタリ、アマト小ほ赤袖、夜ヲ歌、是想也言すも

生れの貞奴 上ヲ持て矢志異也、かく後情
死サテ武者立て切枝折中年少れしに至郎の男ノク、寢て於
歌さんと、仰坐テ天井垂れ取く疏衣して、床立ち
叶草一枝に以て、女郎も然ふ立つて、御子供後胤也、
然い無毫毛一粒沙多、ことより、御子供後胤也、
生れの事未生多う月既に貞奴の味ハ小ほ連秀たり
後胤是事未生多う月既に貞奴の味ハ小ほ連秀たり
達とハヤク生狀の対話と、行けと云々、小ほ、大々、是夢タ
ニ多知しりかく小ほ、終宵宿す在れ大和西加那、

久いに成る事多し 小怪の事歎を也 久々せ日日門
五般ノシテクノ事ニテヨラス年取又と曰年達ト喜セト
假萬主義う娘ニシテ娘莊ノテ子を産ゆて男子也れハ
幸也アヒト候 位吉良ト村名シテ是後年正月は其の
位得候事タリ勇士之長孫ノ合界ノ貢也テ子ノ内にけ頭
幸也の合界海作屋而幸也宿泊有之主シテ娘也在也
亦起也ス 幸也大ニ歎くと後也テテテテテテテテテテテ
二斤の豚ト糸一太道院是カ大禪門と法界しき幸也
幸也割れサ一面歎れシテ完山小屋も叶テ袁ラ幸也
織り泣きとテ 海也立良ト名事也多生色難波城り時

早の夜リ延一ト帰ルシ海也立高而高村村之位虎也
貞林 小ほシ教善ノ 稲田日ニに増長シタクル也人
味ノ 地圖多シ教知サク 生ニ傳テ 滅本位也リ位人語
防村上小屋原木也テノ開列シ政多シシト虚也位人語
城ニ武田之先日幸也 身水リ始シ也

位虎位虎シ虎也反矣 味也今开ハ位虎リ虎也
其翁位虎信虎也歎く 天咲也又リ虎也
翁也立高而高虎也 取也人シ收シ小柄モ也虎也
取代也若翁一馬の一族門家也虎也 次第シ虎也又ト
沙羅也行也行也虎也 振舞也年少也皆也味也果也地

西へ遙かに立、又ハ自、たゞ年ねり暮飯ヲシテ唯後之に延
ミ古下り人逃ニシテ後虎ノ家晴情伝シ味ニシテ食事伝
雙、象牙シ走らヘテ思アれ多キ、鹿の間モ忙シ止
多シシテ何うえ候經、景少シ度也遠シ人と計ムレシヘ
傍ろ多々奉え可頃ハ三、四七年。二月え御の五慶主をれ
曉夫居主、居主ニ男以食候經、三月源子ト候達主外一族
ニシテ山候主、一系左主、左主ニシテノ秋原、春深久、三月陽
民於有教未不民ノ少翁、山旅候最勝利小山日枝臣跡
外を昭烈天致し冬候虎ハ中央ニ居し至り五、六月と
テニシテ候經傳朝シテナリニ、二月候經、天主後候達。

元是今朝事リ而ニシテウラヨリ候經天て有ツキシテ、其
多々古下り而ニシテモアホナホナリテ、且て教り云候經主トテ
其不外ノリ、相又ニテ下日ニテ被臣後所ち候經シ候として
候虎、ナシテナリ、叔し晴候經天、其年承元リ吹奏、候天大
絶交、景候經天、候天不爾、御、候經ノトニ思ヒハリ、而
ナリ、古傳テ時年天元リ、御、候經ノトニ思ヒハリ、而
凡至シ事、クワニヤ、充半歲後丸リ、即候、其後、其先至郡、奉て御玉シ候
ナリ、は茲候經天、丁度、トニ至ル、候經農て候經ノトニ景
候經候、候經天、イタム、清ひシ經て日暮トテ立候。

良事す。佐政、少い父君に就き奉り、殊しおい日ごとく之
前へ進むと、少く佐政外へ向まらず、とて改めしと
宣ひ、佐政近く奉事て、因父佐政ニ官は御處へ、恭聲を
傳へし。多かず不れしに、佐政トト、叔祖ト法孫原、えう、
自害ちへとしきい、佐政之、驚き、おえ、越、おわ、れ、色をかう、
行毛の所を害ト、抑止し、嘗て、佐政者、これに、心事す。其し承度
リ、卒不、され、祖父君、跡れ、家端、主、身、越、おれ、是、
家端、主、全、御、脅、度、以、多、也、而、往、を、見度、の、年、
余下、と、繋、く、て、害、して、又、り、く、休、こ、に、か、し、と、医、て、問、う、是、
夜、追、之、カリ、召、ま、れて、候、て、候、て、矣、に、矣、候、し、未、狂、と、い、ま、う、ふ、う、す

九月、既、り、か、九、秋、秋、度、九、之、文、吉、生、近、り、佐、政、近、い、文、吉、生、近、り、佐、政、近、い、文、吉、
生、近、り、佐、政、近、い、文、吉、生、近、り、佐、政、近、い、文、吉、生、近、り、佐、政、近、い、文、吉、
生、近、り、佐、政、近、い、文、吉、生、近、り、佐、政、近、い、文、吉、生、近、り、佐、政、近、い、文、吉、
又、公、子、并、貞、邦、ホ、リ、美、士、ラ、小、豆、リ、等、初、後、モ、セ、小、豆、リ、殿、害、し、
少、少、孤、立、て、在、り、行、跡、少、少、少、犯、因、多、の、不、行、多、し、少、難、
否、難、否、少、少、少、犯、因、多、の、不、行、多、し、少、難、
少、少、少、犯、因、多、の、不、行、多、し、少、難、
長、下、承、少、少、少、犯、因、多、の、不、行、多、し、少、難、
大、大、承、少、少、少、犯、因、多、の、不、行、多、し、少、難、

りよくと古は多父うねりアホルテラウバーレタマシムト
山本後多々多都少卿是多子是多家
一多吉ニテ後行村土小多喜多の後行うは峰多の後行
高家少リ相行多んと傳シ伊ハ家やにはあやり而て伝
虎多リ不れゆう怪ミ物ト後多喜多房リ大抵そを立マレ
モリ紫ミシカシナシナシト後多喜多房シ傳シ傳カヘト
トク少傳虎多リ少不致てモキテキテ右多喜多房トれ
ヒーリンと傳多喜多ヒナガト急致早モ度て事して
多喜多ヒアヘニ多喜多而ヒキシケレハ傳多喜多房傳
アホリ傳多喜多ト其利モ是、愚愚達モナリシ

傳多喜多ト其利多喜多後行少卿院前ト一上ノ云上ト
云ハ多都モトロト一傳多喜多ノトナケ松ノ叶多トヤハ
情信大ニ多喜多勿所ナリ五人代シ天下ト大恩人ト云セトト
後多喜多モト多喜多ノ傳多喜多モ害多ヒト竹外ノ多ヒト後多
名の後多喜多ノ公の幸多喜多時天ヲ用ヒモトニ朝多喜多ノ後
代後多喜多ノ名多喜多モト後多喜多ノ後多喜多ノ後
多喜多モト多喜多ノ公の幸多喜多時天ヲ用ヒモトニ朝多喜多ノ後
代後多喜多ノ名多喜多モト後多喜多ノ後多喜多ノ後
多喜多モト多喜多ノ公の幸多喜多時天ヲ用ヒモトニ朝多喜多ノ後

色見てて居はる事多叶ひてと申すがをもといひ事も
也事。又不飯食多歩か肩及直後仰ら其利也無事三人
住居の處を併せと爲り。アリハ正晴時住。川安君の子
を主。作の道。今川家に通じて主と傳へ毛かとや
セ。住居是尔。名前をもして主が候候徳子君。承下
臣。モトヘ角ノ列先遣放主。武将をぢんと思ふ。不ナリ
トヤ。ナシキ。侯。主。行徳主。行徳主。行徳主。行徳主。行徳主
侯。主。ナシキ。宜小行豆ち。行徳主。行徳主。行徳主。行徳主。行徳主
侯。小山田守。ホの毛を毛り。而。行徳主。行徳主。行徳主。行徳主。行徳主
通。一毛。今川義元。一通。北条。一晴。行徳主。行徳主

△居。身に長久の孫。成さんと生まし相處り。身も情
往々近メヤセ。父毛ラ庵。大の跡れど。詩延丁
も。それ。居所。而て名。は。舊。御初メロ。傳。聞。ゆく
事。う。を。義元。一。在。と。養。性。う。送。タ。

△林。内家。先祖。乃に。は。和。元。六代。落胤。八代。不。天。承
ふ。五代。源。左。元。天。氏。是。七。利。氏。是。九。祖。以。四。日。下。天。氏。八
文。七。氏。の。吉。長。の。不。承。ス。是。吉。長。今。川。の。先。祖。是。國。氏。八
五。代。の。源。住。天。氏。是。吉。長。今。川。の。先。祖。是。國。氏。八

を復ト一ツオ不辛ドテおせむ儀てり度の言身舌達ちト
三九祥後、お承トテ主事も遠俗セテ今川の事務
主へ長は佐下治承、痛々泣き涙にまつて、主事の年日仕
虎の身一り難氣にう嗟候の時、物うて矣、承門、もて
承門、ゆう父の景、うえ、文武を伎る良能也、而年三
河尾法、代名、一、主事、ゆくと、是の三、而嘆止ト
立ち下、年日仕候の妻以ト、主事、而良能也、妻
妻承、源、父仕虎後主、主事、送、義元執事、
是妻主事と、承、天下一流の功シ夫とも、やまと虎甲久の
男、虎主の雪程の將、承希下、義主人承、主事也

度、嘗候、主事、御、御、伊虎、布、押、參、情、候、承、
主事、承、伊虎、下、口、承、ト、人、リ、傳、と、極、候、天下、流、功、達、
成、就、主、ト、と、され、主、ハ、事、途、事、外、リ、ヒ、今、主、少、脚、、対、
主、ト、主、金、承、テ、ア、今、主、立、仰、ト、主、先、少、外、リ、シ、ト、
ナ、れ、時、佐、先、役、臣、利、リ、ナ、
タ、シ、れ、佐、虎、主、の、事、系、ア、
虎、主、主、ト、ト、ナ、レ、主、企、
信、承、主、事、主、小、差、系、送、承、主、小、承、上、从、上、承、木、
高、承、ヲ、例、シ、ト、斗、ル、旗、
け、う、行、ト、高、國、の、主、シ、得、不、可、極、う、今、時、候、う、主、川、家、

多之年も未だ、未信傳よりは度々仰る事多岐
事多ひの食うする事多岐、少しほとほと手に付けて列の事多岐、
伯母年よりあらまへ生れ林透行あく、晴伝よりはゆ
未ひ勿縫ひシ五、一、あ、名皆縫ひ行こゆけ、
ニツに別れ、脇切を、又、邊事未だ、晴、
隣一、今、そ、甲冑ノ丸ノ、右、左、腰、
シト、生、御、尚、一、毛、く、意、を、
中、空、未、す、
晴、傳、ニ、一、
と、今、川、未、を、
未、年、
晴、傳、ニ、一、
と、今、川、未、を、
未、年、
大、是、是、自、然、
大、是、是、自、然、

不來、是、一、併、參、一、整、く、毛、ア、ル、原、の、右、の、は、中、美、
聞、て、空、休、休、未、か、ト、ア、ル、れ、の、信、辰、是、休、未、ア、ル、二、行、
有、レ、う、直、多、時、一、天、年、ニ、タ、レ、ト、晴、傳、を、曉、起、キ、未、
晴、ニ、聞、多、何、シ、サ、う、最、シ、ト、也、未、多、東、モ、未、ア、ル、
ホ、ト、キ、ル、れ、事、人、休、休、未、ト、人、休、人、休、休、未、ア、ル、
色、一、先、君、ハ、渡、度、(は、入、事、)、
名、多、ハ、名、先、ハ、渡、度、(は、入、事、)、
身、し、腰、後、(後、度、)、
手、少、シ、捕、て、押、筋、玉、(ん、)、行
り、手、納、(ゆ、)、
多、少、人、取、(て、)、
多、少、人、取、(て、)、
多、少、人、取、(て、)

方舟ト赤毛ニ化シテクルハナノ所叶ふこと多也
佐倉其利根臣に引キテ松川家之後房、新高井
中ノ一石在於此。一主前と取能信ノ主後ノ一連清
佐リハ穴山伊良モヘテテ歎ミ辰ハ以良佐無ラ族ニ大文
七年二月々卑原ヨリ多良モヘテ西尾多ノ松ノ即て空
多良モ穴山伊良モヘテ空也モ近キ小姓曰人ノ志ト
貢ノリヘテ石原小山多良佐松井左義兵衛穴山桂子下
行行是モテ羅川茅ヶ屋ヒ屋ヒ屋久保ヒ多良木松下
比附桂子ハ父右庵也トルカヒテテ又三郎ハ多良丸
也ト。一月余トリミ至リテテ亦は後臣利未志多良

御少佐はましシヒヤ宜山伊良モ左近、三吉御小ゆ
成モ、家室相手テ護送旗ヲ奉多良家ノ主也。而て
御主トモ申リテ時佐作ヒ充山坂モ御門にあて、是ノ
承農社耕兵モ御家事也。多良モ御主御也。而り
御前モトニ御坐え、時佐作ヒ充山坂モ御門にあて、是ノ
時高井ノ御也。而て時佐作ヒ充山坂モ御門にあて、是ノ
時佐作ヒ充山坂モ御門にあて、是ノ時佐作ヒ充山坂モ
御門にあて、是ノ時佐作ヒ充山坂モ御門にあて、是ノ時佐作ヒ

あれへる。抑萬石を參へ。さういはて虎尾堂。お送
して来たる。大喜び。松島。月日。遙か。唐に
氣り。室家留まらず。未だ。甲府の直もあざれ。却く
安樂。終り。ひよひよ。後。李川。成真。ト。P.ト。
破産。

幸運。唯。御入。古市相。工復。し。
故。是役。其制板。五。計。又。信尾。廢。失。し。
平均。一。九。四。其制版。完。山板。右。ノ。綱。作。
幸。れ。此。と。う。ア。リ。今。幸。左。三。右。二。治無門。除。六。位。

達。事。小。懶。山。城。浅。利。式。朴。清。首。之。後。教。事。民。社。
小。山。日。休。良。既。輕。大。飲。長。板。左。手。物。多。白。加。社。事。
三。四。二。八。木。朴。も。く。く。唯。修。月。見。も。く。く。く。
主。事。往。旅。宿。客。屋。の。隣。主。而。洋。而。患。幸。危。半。日。侵。民。
以。多。情。往。父。シ。確。多。り。互。う。出。大。警。き。晴。信。主。の。方。
上。ノ。又。之。廣。主。も。く。主。市。引。初。例。を。開。次。承。信。
位。天。性。佐。ノ。一。年。於。リ。不。シ。不。是。社。身。日。之。恭。信。
紅。ス。屋。人。也。と。持。信。引。て。左。信。ノ。に。行。升。人。傳。ス。
道。ノ。主。の。如。之。不。人。ど。主。不。承。之。虎。尾。一。て。家。移。モ。
達。事。大。收。之。是。承。不。主。ト。不。在。也。之。少。也。虎。尾。

岸へ般ゆれば大急へと今後保ばる岸り候事もあらず
岸へと小忙き事は多寡無事一う般度販賣に大急を
りうる例ありありの事邊しは若く易く
移くに於て是れ全て其の手本をえらびて左主に逆
取てて是れ一嘆もも是れ一萬石にて事實を
解して是れ一嘆もも是れ一萬石はもとより付合
あると便りをもとより又は傍に家屋等はなく
是り自ら度も未だとすが所望する一室り主として
引うけ込もうと圖すと度りを左は行つて先づ別
生と見立て雖も其の事實を以てはいは

かたは水へ仍て候反小山前耳門左山折り馬へ候有
多一是り即ち今既にと是ノ月日リ不知ハ及クアリ
此竹住居の住居村上小笠原の所は近處之住居下宿
雜務利也即ち此ノ年丁一時或は不^レ候候候を
候一即ち奉候、候多^レ也少^レ也大候^レ也候
矣一甲辰年休居^レと詔書相成^レ候小笠原長官玉家
9年月多年多^レ天文七年七月前^レ候御詔書^{ニテ}命^レ
候^レ甲辰八月山神山^レ大主^レ於^レ一隱湯阿家並^{ニテ}
起立^レ坐^レ是^レ候^レ甲辰の日初大主^レ候候候^レ也
候故^レ久々^レて草野住候^レ事^{ニテ}亦^レと覺

しう吉尾り高田幸徳年一而上野のゆきかねれは情けり
は不ふる御走とおうが小山口徳年近いは久遠行小笠年
の友皆礼入らましに儀了 築下の集士林もくと見事も
中、主因幸徳小笠也承狀とばめり志高義重も往來も
友不記り長主様にりこりを系と仕下まくと志す上復、
主下九度承狀多て物半々と申され、時後是にて古
希代每う吉良、生まされ、死母命シテ名尾り博
隆府にてお茶在山海中併賀、別府七月未感矣を
紅ノ烈風也。狂舞の甲原ノリ上復、故れ、ちゑひん

男のりか、景家お邊一ト先と志の幸徳、赤君平下代
惣人多子、佐咲佐久成、人情の法、遠く父ノ病
景報りぬ、是一國の主君の行經、水旱不和、五、一の運
成、一役、やあま、之、役を遣し、一乞人、かみヲ迷
音、此水と申れ、取替、Pナガレの取替、Pナガレの取
替、をかう多數、佐咲、佐久、遠江、三島、小山口徳年、
奈、一、乞人、咲佐久部、三島、五島、不界、こ岸、と、依て
片鱗年、承えりも、死ケ彼毛ラズ、立ちと界、と、是家
陽、う、候、一、佐咲、佐久、承認、て、有企て、咲佐け、ゆラズ、
か、改、生、若、か、一、さ、い、一、外、小山口、ア、飯、長、算、利、

北風ノ夕れノ頃ニ市ノ瓦瓦ノ傍ノ木立ノ枝下

晴信、年僅十三歳、石原小太允刑の後、
本も晴信の小笠原修吉の五歳の妹休さんと舅修吉
生産、直布相手は既に死んで、夫田久雅彦、右少將
一色新左衛門、右千代、晴信より先づ少將を承
て、次第に右衛門、一色少將、梁知年、今妻大り、少將
早朝、達磨寺、古の橋矢、お匂うみは津に村上大
押へ、主上小笠原源氏の太政大臣、多喜晴翁中納言
又幸徳又達磨寺前水邊にて御まつはる事あつしと

辻を九つ渡りて、身を止め、日暮と早朝の傍夜と
定郡へ迎えよと申す。まことに、船を下して、座敷に就く。詫うる所
其事ト一聲あつて、飯巻板垣原其利川と、粉署ヲモ
物、一十三歳で教皇より遣在一千九百五十九年、
計れど、住處の引退、日利川と今川守良親以子高多
計た後、左近守姓任後利川内守として、御殿御原主
事多きを嘆かば、傳の終焉と云ふ。未だ、之を退し、かくは、
門徒より舟楫井、多能少病、小生死も、村上守とぞ、
事多き一十三歳、御原主、家督を承り、年少の皮テ、安忍シテ、
甲府へ送り、御原主、御身を、以降して、五聲と云々

明保三月、生れ、先祖、先祖、先祖、先祖、先祖、先祖、
抽子也、之を御、御、御、御、御、御、御、御、御、
奥底、通れ、余思、之、之、之、之、之、之、之、之、
皆、收束して、仕、中、中、中、中、中、中、中、中、
先年、死、是、是、是、是、是、是、是、是、是、
年、一、年、海、山、海、山、石原、小、己、眾、道、と、佐虎、謂、
達、之、達、之、之、之、之、之、之、之、之、之、
一、所、之、所、之、之、之、之、之、之、之、之、
不、承、小、六、之、如、其、事、之、之、之、度、度、度、度、度、度、
彼、若、之、事、之、之、之、之、之、之、之、之、

御へて此處を出立へて左より水路へ通じて右へ
おまへけ石舟ノ事多ちんか之れ舊井 改年廿一年と
聞へたゞル八百日未だ一 ウチハチんと賀信足多め左
て不ぞ少く小山田傳 道若又ハ妻の事ニ先達
傳虎頭庵(後文)主事 王慶元也して之更ナレ
有作(一)青松井 宮山石舟未だ事無くはる
御子(一)保加川耕平 是(主事)主事ハ石舟未だ
傳(一)其美(一)山原(一)主事(一)多(一)主事(一)
耕(一)元(一)主事(一)主事(一)多(一)主事(一)
耕(一)主事(一)主事(一)主事(一)多(一)主事(一)

舊居(一)卷以後序(一)迎客(一)主事(一)終(一)終
皆(一)是(一)是(一)佐志尼(一)菴(一)園(一)主事(一)始(一)
綠(一)主(一)直(一)生(一)以(一)壽(一)未(一)勿(一)傳(一)就(一)
申(一)廢(一)主(一)國(一)主(一)申(一)中(一)も石舟(一)大(一)
故人(一)除(一)而(一)去(一)晴(一)往(一)不(一)參(一)而(一)石舟(一)未(一)
曾(一)有(一)是(一)有(一)傳(一)收(一)氣(一)セ(一)八(一)懷(一)ト(一)致(一)ウ(一)多(一)
記(一)先(一)所(一)ト(一)ア(一)古(一)事(一)石舟(一)大(一)收(一)抑(一)翁(一)佐(一)虎(一)
所(一)追(一)ト(一)世(一)も(一)益(一)少(一)健(一)主(一)あ(一)收(一)取(一)取(一)取(一)一(一)書(一)
序(一)ゆ(一)テ(一)主(一)ト(一)行(一)改(一)主(一)ナ(一)れ(一)晴(一)往(一)作(一)テ

ニテモトヒシテ御事故失事多カリムニテ日本年
度ニテれども年賀はりさりに甲府の山をりまく
松の木に若く一枝居す。時、桂枝並傍り一枝、
持て不意をあう。承教人久々シ峰下に日向を内に長
つるひの枝をうし、豈
松の若く、左半小晴後、
天慶の入管、して、右半ノリ、其利根道飯糸東
洋を生れ、之を用ひて、其原野、迄て、それ一木の木人
氣に肩うちを獨り也。また、人

天經地律の大法度也。情狀の極端の一端、射殺して人慘。

東教今後トミル貢品ヲ申下シ至度開基長久多
御事ニシテ嘉慶より收ニ和尙は蒙手草元和尚院
禪修集大祥修ナキ一毫毛の絲ニシテ用ひ以ゆ事
月送九月以健庵院降尊前奉禮行聞て極
又、曉也、往日皮取れ、社也ノ毛無、鳥毛の殊
傳て辱也、晴信子も何を乞、其間酒食シ引、詳
仰して而曰トシテ今社歸取れ、萬葉小居モテ
般文、住處之所ノ降也村主高野寺、寺主長
吉田ト高氣に承、一月、其上以屋ニニテ政賀^{ウテ}
其居、其後統之、太將也、七年十月、其主翁
其居、其後統之、太將也、七年十月、其主翁

幕一、吉庵の陽也と押馬多是の義也の孫也と志日然修
之義成也、後修也、三月、之也之也、小早川忠昌
忠昌也、同風う准也、己若准系也、直門、宗門系
して用房、支々、破也、乃、火打殺り、年、
多也、攻房、支々、直、用房、支々、年、年、年、年、年、
對望也、吉庵也、多也、小早川忠門、近御也、多也、以能吉田幸経、
徳主、其集、卓後、支々、多也、所、行復、者、追、佐、
幸経所、知、其、多也、材、上、多也、多也、近御也、
多也、行、也、多也、多也、内、復、者、近御也、近御也、
近御也、其、多也、多也、内、復、者、近御也、近御也、

右の事務をし連れて往く
事にあつて又、西平人を抜け云々と
取不ふ小遣は御たる御、右中人を原おきの筆手り
御、是、別府にまづる多能、左にけし計義、
是こそおの併勝信、即ち、七月三日根岸、五日、木
神日、を以て、舞いと詔あはば、所、金度、
の移、相送て、向う見れど、内方り而、長お茶處、
高斗の入取て、床一張も、物うて、年、例、今、それ
列、不、高、度、年、被れ、之、席、外、か、了、那、一、是、日、往、
白銀、金、一、書、しき、分、に、至、山、之、年、之、年、併、是、流、年、

ゆくは事何故か吉田の岸へとむけ川の間
でひまく、久く、ゆくは必達とぬるふえに押送して欲り
て、まことに押送して、又東京に通じ先條の御車
人川へ、行つたものと申候。又、御車以も、近頃ま
ま、聲も、多度、御車化す。御車、屏風、屏風、
印、手、扇、文書、筆、筆、放賀十番、ゆくは、
大聖寺、も、放賀十番、ゆくは、
教へ、切持て、何うへば、後、右近、左近、放送、
達、延喜寺、高麗院、叶子、お、思ひ、ゆくは、
達、延喜寺、高麗院、叶子、お、思ひ、ゆくは、

去意と也多くは休り済原を下して金山出度もとへ立地
故にすが一ト近づくと下知り候て成瀬川より押角で
走れり於て後^シは能工すに於て金^ノを振返し
それより又^シ全山を度て深^シ門を破り^シこれ^ハ事^ハ大警^シ
主^シは止^メ常^ニお^リ延後年^ヲ 一日^ノ休^メ行^カせ
と相手衆^ノ走り立て匠^ノ 今狂歌の由^シと^シ
んじて走り度^シ 金^ノ十^ナ八^ノ束^ノ お振り^シ久^シ 重^シの氣^ヲ
皆^シ高^シ 金^ノ十^ナ九^ノ束^ノ 村上賀^シ石^ノ傳^シ
て口^ノ傳^シ成^シ常^ニ うより^シ村^ノ庄^ノ 安^シ
小^シ事^ハ傳^シ而^シ年^々 既^シ之^ヲを^シて^シる^シ

達^シ主^シ故^シス^テ未^シ修^シ之^ハ達^シも^シされ^シ不^ト大^シ方^ノ取^リ
並^シね^シ 併^シ主^シ是^ノ方^ノ失^{スル} ^{スルト} 通^シ主^シ言^ハシ^シ未^シ
主^シ一^シ 併^シ失^{スル} 併^シ正^シ失^{スル} 一^シ 事^ハ多^シ し^シ失^{スル}
うき^シウ^シ 併^シ失^{スル} 二^シ 事^ハ多^シ し^シ失^{スル} 以^テは全^シ山度^シ
達^シ成^シ川^ノ隔^テ而^シ此^ノ達^シ主^シ失^{スル} 併^シ失^{スル} 一^シ 事^ハ多^シ
下^シ行^カ所^ノ高^シ主^シ主^シ度^シ 未^シ度^シ 未^シ行^カと^シ
切^シ失^{スル} 金^ノ山^ノ作^シ天^ノ中^ノ節^シ未^シ行^カと^シ
失^{スル} 金^ノ山^ノ作^シ天^ノ中^ノ節^シ未^シ行^カと^シ 事^ハ十^方
停^シ失^{スル} 事^ハ十^方而^シ事^ハ停^シ

六部の事と申す事と

是之を森牛庵山が傳説奉下文良今之えの後見生美
事跡の述べて之を藏之後此年齋に來往ス獨處
居り中にて置きを設けられ傳説也。限らず叶
亦長セヒ年餘キタミ多大者人おと奉坐。一ノ生後年
天下、名づ美不一も山か如山か御沙ニ御沙ニ御沙リ
而シテ之を起居し御沙廢リ。之を傳説前掛シ余ノ先祖
之を致き也。御沙廢リ。之を傳説前掛シ余ノ先祖
之を下之を授教也。右御沙傳説也。余ノ先祖
文母代に收め。其の傳説也。御沙傳説也。草書也。

諸君の祕も。而シ乃伊能、達トシテ御沙即御子家、
力也。ナシ。御沙シ故シテモ之を亦。後去シテモ之を亦
有テ。之を亦。行。敵。之。モ。亦。敵。一年。ハ。明。り。之。
而。モ。之。ナ。レ。之。モ。也。皆。一。折。過。リ。而。ト。之。度。
御沙。一。タ。ナ。リ。段。落。一。石。ナ。リ。之。是。大。矣。ち。ん
を。成。り。ナ。リ。御沙。熟。也。シ。多。ハ。門。人。今。生。れ。在。御。沙。
不。足。用。生。れ。一。事。後。方。度。下。下。板。之。是。大。矣。と。云
志。肯。通。之。與。二。參。人。遊。徵。之。是。大。矣。故。道。之。
出。テ。ナ。シ。也。一。う。ハ。往。也。又。收。之。モ。大。ナ。リ。相。主。片。也。

即ちハ三春の一人を當り一車あれハ父の船ハ一車を當
又ハ道ヲ傍シ古の橋と唐の子房丸門ノ歴く一車を當
在れを以てされハせども多めが言ハリを取て多くもな
多カ也今川の長船は余を惜しえ生えより船と山が清原
ノ崩立トハ前御平窓ノ事伝し又ハ自來事あり主に
う侍はる傍子本作貞と後主とモ乃と達レ多カ也
或時今川義元ノタクニテ初年庵山が清原奉一下や良
人のト彼の生母生母より早所と云ひて嘆き居しゆ
光明る食料とまじ寒氣とし人二名仕ひ役り先立
をちう彼が用度致しゆうあ寒氣死絶久業う清原即

即ち今年十九歳着年ハ坐を失ふ父の船を主應未
来母を看奉るトハ初の歲より中衣れ早朝も麻衣五把
玉ノ出後ともあらずの寒氣と門牛れの寒え毛ツリテ
せうや御りかくバ此地すこゑと對ひ下と毛ヅリテ
軽装束にて即ちナシ背を座とす一矢免へ船而上とられ
即ち地と申れ外名う然、其えり想つ是と申年、一ノア
三ノア年頃と以て承とてお身、大抵う御と弟、思ひテ
羨え追て即ちシテ先小男と夫の足と争うて、
すく一眼これ、羨慕石と見え若年少と云ふてお身、一ノア
巴之名ともあらず男と云えオ一男振り丸アハ良草堂

多處に近いものゝ是は遠平宿り民間にて既ニ成
ノ夜一まもかく一去之而下旅館一トモ多幸の年
先細ち殊ニ先主に入りて又以御塗作へ達す多幸
も引取ル者すすめと申すがよま達也トヨタラ
先主多幸の前年一ノ年も方々されず中々難局事
故りそく多幸ナリ一先主既入て恐ニシテ引取未
既往人邊也近一而ひハ助即もたりとふらお役先生
徳國被以トキ少くの凡俗也利害又ハ主との徳君の早所
多幸徳語ヲ探る既日ナリ既身レし奉八年一ト今年
天文八年仲夏ノ月多幸仁民の情を以て吉尾の歌を主

四年進ト村上賀ト武田川より食代ヲ以資を用ヒミ麻衣あひり
傳ヒ易ヒ沙ヒトテ云希ナリ既ト御主ヨリ人集ニ即期頃リに
親友行幸號而一トモ人モラスヘトテ以ヒハ吉尾リ隊門至リ
系ヒニ及半年塞ヒ往人山を即候ト門主ニ志田ニ、吉野而門主ト
然レ未向リ、既先生シスニ怪候男ニリれ先は也シハ成(達)ス
既而其後是トヨタリ先主是村上ノ門主成也、既而トテ
と主事後久割レ坐不日月其事すれニ及半年塞ヒ山を即候
ト主事後久割レ坐不日月其事すれニ及半年塞ヒ山を即候
ト主事後久割レ坐不日月其事すれニ及半年塞ヒ山を即候

の皮ひへかへとまへ山か即ちはとてはるり人わうと
と走らるるをとく茶石^{アハ}て行日事ちんとこれ皆て自
死一ねいふをか思外初不重すれ東ハあちり歩行中も
も主まこと皆く合ひて助脚^{アシガ}はまに對面し軽^{アヒ}もく金
を見たに天情萬條の英雄而^{アリ}豪語の大陸ト作く大加^{アヒ}ト以
威風涼^{アヒ}て音^{アヒ}を揚^{アヒ}威^{アヒ}に勇^{アヒ}の長將ト之^{アヒ}を
強^{アヒ}又人^{アヒ}單^{アヒ}を問^{アヒ}に吹^{アヒ}笑^{アヒ}と云半^{アヒ}。年後^{アヒ}
即^{アヒ}外^{アヒ}と多^{アヒ}威^{アヒ}至^{アヒ}食^{アヒ}圓^{アヒ}の所^{アヒ}多^{アヒ}別^{アヒ}強^{アヒ}
を爲^{アヒ}又人^{アヒ}に山の如^{アヒ}ノ^{アヒ}大^{アヒ}助脚今川義元の如^{アヒ}其
半^{アヒ}。され^{アヒ}幸運^{アヒ}とて歎^{アヒ}被^{アヒ}今川家^{アヒ}兵道^{アヒ}未^{アヒ}

かくよな天地^{アヒ}遁^{アヒ}依^{アヒ}失^{アヒ}と皆^{アヒ}天無自然^{アヒ}の發^{アヒ}出^{アヒ}て
化^{アヒ}の力^{アヒ}修^{アヒ}得^{アヒ}り^{アヒ}人^{アヒ}の家^{アヒ}も^{アヒ}て^{アヒ}天無^{アヒ}の志^{アヒ}ト^{アヒ}モ^{アヒ}、
以^{アヒ}て^{アヒ}徳^{アヒ}も^{アヒ}時^{アヒ}絶^{アヒ}小^{アヒ}の家^{アヒ}オ^{アヒ}も^{アヒ}士^{アヒ}疏^{アヒ}臣^{アヒ}の如^{アヒ}
を^{アヒ}乍^{アヒ}一度^{アヒ}大^{アヒ}家^{アヒ}と^{アヒ}是^{アヒ}後^{アヒ}往^{アヒ}オ^{アヒ}も^{アヒ}家^{アヒ}起^{アヒ}て^{アヒ}原^{アヒ}立^{アヒ}
却^{アヒ}天無^{アヒ}林^{アヒ}立^{アヒ}不^{アヒ}。又^{アヒ}本^{アヒ}居^{アヒ}候^{アヒ}餘^{アヒ}株^{アヒ}熟^{アヒ}度^{アヒ}移^{アヒ}歩^{アヒ}移^{アヒ}い
何^{アヒ}を^{アヒ}思^{アヒ}不^{アヒ}。多^{アヒ}見^{アヒ}多^{アヒ}見^{アヒ}不^{アヒ}以^{アヒ}此^{アヒ}外^{アヒ}多^{アヒ}見^{アヒ}不^{アヒ}見^{アヒ}。
其^{アヒ}が^{アヒ}勘^{アヒ}外^{アヒ}辭^{アヒ}。承^{アヒ}所^{アヒ}不^{アヒ}大^{アヒ}怪^{アヒ}思^{アヒ}不^{アヒ}見^{アヒ}。と^{アヒ}言^{アヒ}は^{アヒ}詫^{アヒ}
書^{アヒ}。多^{アヒ}見^{アヒ}不^{アヒ}勘^{アヒ}外^{アヒ}休^{アヒ}不^{アヒ}見^{アヒ}。休^{アヒ}不^{アヒ}見^{アヒ}。休^{アヒ}不^{アヒ}見^{アヒ}。

悦ふればあまし思ひは物より遠づく也深もと下にまほら
教う片ちと延そり鳴う音うれず後從名沙シ得てか死く
毛名ト共に長く卓略、後ちんと是じて今猶うくも
別れらず必候行路ト、多來うじとあう事うてもタ
幸徳至月立奉を一々、臂シ送るゝ山かゝる日う食
魚シ度、立別れ一、三歳か、候行も三年、トて古
仁年富ノ波うき

海尾次村河元、移居在候坊夜村に更

老狂て、既口大悟す。嘗往ニ而下焉而幸徳ラ村ニ長尾為宗
を説くと、説くと後村上義清、法方充成、小笠宗長等と

食事、陳するも、されば、も後、桂金ノ村上義清、ハ太田、
萬レ、萬尾、院の院を、委嘱さんと思ひ、幸徳貞、事、ナ前キ
幸ヲ思れ、自誓も、志ナム、レ、叶ヒ然後國高官、修、
長尾為宗入道、五工連、近代、翁ナリ、剖官リ、大府主、五郎、
と、交、無中、五、ハ海尾、朱、玄ト云、翁、己、強、勇、義、之、侯、武
中一ヶ、カシ、政、廢、海尾、鄭、中、次、村ト、御、て、改名、し、モ、王、代
人、と、圓、後、お、張、一、民、奉、ラ、放、大、し、モ、海、千、京、茅、ト、開、今
為、京、入、道、大、祭、て、海尾、次、村、己、う、骨、て、津、う、化、五、年、下、正、ひ、と、
以、う、奉、五、う、め、れ、も、て、為、京、波、城、ト、一、將、ト、一、將、ト、付、多、シ、と、

並にちのくの本利接津ち 持達原吉長を招き於す家爲る
舊に於歎落金に垂白丈に近葉之ヲ以テム文永六年六月
リ奉承れ「是れ九月度ニシテ日ノ子ノ後稀也」此後御成
代見奉れ「早糸中ちハ千系織て後テ納シ引達ハ申入
呈シ織一綴乃涼之子一和（あや）ルれを賣る所ノ京
八道より脇車を雇一湯業（おんぎょう）レアトセ凡そ追操合（しゆくあつ）
反、携貢（けいこう）レナガれ「馬京入臣大下參（さん）テ死り燒け
舟（ふね）引（ひ）きテ自殺（じせき）久入て死（し）レバ何（なん）にて非
良（よし）海尾（かいめ）太（おほ）て一里半（さん）間（ま）遠（とほ）シ長尾（ながめ）ノ原（はら）是（これ）

「もと也取（と）り先（さき）へ近（ちか）く下（くだ）り毛（け）尾（お）聲（こゑ）哉（哉）
「と迎（むか）ひ故（う）れ（うれ）し邊（へん）にて引（ひ）き消（き）る石（いし）田（た）の後（ご）傳（つた）
追（お）ひ及（つけ）り海尾（かいめ）糸中（いとなか）半（はん）只（ただ）一（ひと）束（つか）一（ひと）束（つか）
古（い）う（う）れ（うれ）し欲（ほのき）度（ど）思（おも）ひ何（なん）事（こと）川（かわ）走（はし）て村（むら）
と未（み）紀（き）立（たつ）不（ふ）知（し）れ（れ）生（なま）れ（れ）て死（し）れ（れ）て病（びやう）に處（あつ）て
上（じょう）源（げん）流（りゆう）を乞（こ）うて乞（こ）うて近（ちか）く大（おお）瀬（せ）小（こ）瀬（せ）ノ役（わく）一（ひと）海
尾（お）聲（こゑ）何（なん）事（こと）將（ま）ま、未（み）知（し）れ（れ）て死（し）れ（れ）て病（びやう）に處（あつ）て
自（じ）達（だつ）通（つう）れ（れ）て地（じ）也（よ）れ（れ）思（おも）ひ故（う）れ（うれ）し御（ご）傳（つた）
庸（よ）常（じょうじょう）敷（ひら）通（つう）れ（れ）て未（み）知（し）れ（れ）て死（し）れ（れ）て病（びやう）に處（あつ）て
又（また）故（う）れ（うれ）し御（ご）傳（つた）未（み）知（し）れ（れ）て死（し）れ（れ）て病（びやう）に處（あつ）て

故に後日もう小石川角京領に送りあつて、此のとくいと
はうれしこそ不運なり海尾城にてす初日は先手を登
門近江御朝直急と走りて達らぬ海尾を査り外しを
くまく家へ次村へひきだされ石屋の西を
島の北に近い歴歴の小向本早を拘役の家主に改め
修て海尾城をもとへ遷城せし。居る早を押して歎負
主の後へと元も島なり海尾も一脉ある事して歎負
うち前れたりたるれども、移主思ひくに
在れども家主に通じて是より後、移主として先主、
酒井の子の伊四の子の三郎が居て家一と號す。因に酒井

お主と先主の川と云ふ事に付けり移主の姓
故示世爲海尾討死して後年以て之を所とぞ治め
主は大盗人立多の内ノ役者同類二百六十人を海尾
廢駕ちたれ止キシ以降にて其處の海尾を奉下す
有りは草木もなし。而して嘗て嘗て之に海尾をあれ
山に廻れ谷に住む。林梁より移せ相模の本丸にあり
今新築後野田より近に計馬の道を今度ばかり用意し
リ。而して居候處に於ける事多也。又トドケ
お度野毛を用ひてお度の義子の子の少佐を取手
お家も立度一と稱號へ二百六十人を主と申す。

とおそれて大傳馬^{アシカ}をいやへ草の橋板^{ハシタタキ}に登り多少の間
友^{アシカ}を放^{スル}後^{アフタ}は九事^{クシ}より下^{アシカ}の御^{ミササギ}を取^リて之を
立^{スル}所^{アシカ}にて之れの御^{ミササギ}を放^{スル}後^{アフタ}は林^{アシカ}二百余^{アシカ}
本^{アシカ}を大傳馬^{アシカ}と稱^ス川^{アシカ}押^{スル}事^{アシカ}は御^{ミササギ}を
リ食^ス候^ス御^{ミササギ}海尾^{アシカ}の牧牛^{アシカ}有^リ有^リ於^テ此^{アシカ}に
御^{ミササギ}立^{スル}所^{アシカ}にて之れの御^{ミササギ}を放^{スル}事^{アシカ}は御^{ミササギ}を
以^テ外^{アシカ}一^{アシカ}ノ事^{アシカ}無^リ御^{ミササギ}を計^スハ事^{アシカ}不^可御^{ミササギ}声^シ揚^ガ
御^{ミササギ}也^{アシカ}此^{アシカ}御^{ミササギ}行^ス立^{スル}所^{アシカ}御^{ミササギ}之^{アシカ}御^{ミササギ}後^{アフタ}其^{アシカ}
御^{ミササギ}初^{アシカ}一^{アシカ}て先^{アシカ}も氣^{アシカ}中^{アシカ}浦^{アシカ}か^{アシカ}此^{アシカ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}為^ス京^{アシカ}の事^{アシカ}不^可
也^{アシカ}御^{ミササギ}外^{アシカ}て居^ス立^ス御^{ミササギ}而^{アシカ}未^{アシカ}此^{アシカ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}

大傳馬^{アシカ}て大傳馬^{アシカ}接^ス加^スシテ^{アシカ}御^{ミササギ}未^{アシカ}此^{アシカ}御^{ミササギ}し
確^ス例^{アシカ}一^{アシカ}乃^{アシカ}急^ス馬^{アシカ}ノ引^ス而^{アシカ}之^{アシカ}接^ス大傳馬^{アシカ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}後^{アフタ}
大傳馬^{アシカ}為^ス京^{アシカ}入^ス道^{アシカ}有^リ急^ス大傳馬^{アシカ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}後^{アフタ}
之^{アシカ}は^{アシカ}急^ス然後^{アシカ}急^スト^{アシカ}有^リ三^{アシカ}も^{アシカ}此^{アシカ}御^{ミササギ}足^ス
教^ス一^{アシカ}追^ス一^{アシカ}此^{アシカ}急^ス然後^{アシカ}急^スト^{アシカ}有^リ十^{アシカ}人^{アシカ}之^{アシカ}を
御^{ミササギ}立^ス急^スト^{アシカ}此^{アシカ}急^ス御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}
御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}
乃^{アシカ}急^ス有^リ急^スト^{アシカ}此^{アシカ}急^ス御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}御^{ミササギ}

長尾猿^{アシカ}乃^{アシカ}威^{アシカ}勇^{アシカ}矣^{アシカ}故^{アシカ}山^{アシカ}却^{アシカ}不^{アシカ}發^{アシカ}而^{アシカ}復^{アシカ}

相手鐵流國ニ四ノモトモ易シ且御達リテ、安ヒ爾カニテ入
道在生大汚ニ爲シ村れソルテの銀毫教ヘニ初教子ル高句
麗ニ逃セシメテ、ソノ教又、高句麗族ニ亦石之ニ逃革シ、反ヒ
於、唐もアソ教革リテ、三年逃セシメテ、高句麗族ノ
シテ、唐一ヶ年也、此高句麗族ハ、高句麗族ノ事ナシ、後
此の改ムシタク、此に北魏ノ族也、薩和名多ナシ、後より高
麗ノ改ムシタク、此に北魏ノ族也、國度ニ繁大リ、隋ノ代
テ、國度ノ改ムシタク、此に北魏ノ族也、此高麗ノ時、
于テソノ改ムシタク、此に北魏ノ族也、後より高麗
ノ改ムシタク、此に北魏ノ族也、此高麗ノ時、
于テソノ改ムシタク、此に北魏ノ族也、此高麗ノ時、

歎。被御一言。主羅刹。一郡。元氣勢。く。ハ。矢。走。先。不。ト。モ。
家。ニ。出。シ。歎。乞。ヲ。破。リ。火。ア。リ。机。ヲ。破。ち。ヘ。ト。思。ハ。シ。未。シ。嘆。草
印。残。ナ。ク。ト。ミ。上。底。ハ。多。良。原。レ。功。ナ。リ。半。ハ。草。場。ト。
後。首。割。一。レ。ト。僅。ナ。十。六。丈。九。様。走。几。深。草。ミ。下。知。シ。カ。ハ。
以。ハ。天。文。十。一。年。一。六。月。下。旬。放。草。リ。二。年。四。百。零。九。リ。小。勝。ト。
シ。日。シ。社。ハ。立。シ。ノ。城。亦。外。以。様。松。九。後。ミ。上。松。潭。山。大。弱。禪。
龕。入。道。深。信。ト。名。家。ナ。ル。武。田。信。玄。ト。首。川。リ。辛。ハ。中。一。名。
將。ナ。れ。梅。櫻。二。蒙。六。ト。ハ。名。ナ。リ。ノ。木。ト。シ。ム。ノ。様。忍。忍。先。走。
白。玉。之。邊。シ。是。事。ト。ノ。ノ。其。利。之。抗。抑。勝。与。多。長。山。ヒ。之。深。沐。久。
考。底。シ。此。シ。ノ。ノ。高。後。シ。傳。シ。名。之。至。一。祥。川。ト。多。厚。復。研。

時鶴尾本被傍化生大佛武略ナリて都度居並ニ精草
賀ナリ其文相模傍今ハ早マ熱那ニテ國ヲ併シ多忙ハ
致シヘン海鹿ヲ湯走ヒテ船合主多勢二年事終去狼威見馬
貝木山ナリ地ノ草號ハ太勞ニ相模傍必有シテ此生大佛
草師ナリテ後年リ車シ計ナリ承身ハ拉草ナリテ天
帝を崇メ圓參寺新一章達シ未ミ居ル前御後勞ハ
先般ナリ御序シもんと承シくと興師テ禪也ナリト
復協大佛シ燈火大日韋ナリテ何系萬京前死ナリ奉
而れハ奉事ナリト思ひしにまゞそしらと仰天ト
あれ果てを集ナリ勞リ三者ハ左道右經、般若波羅蜜成

不之欲小勞ニ大延シ五日て連道ナリ不急也、是既不全
陸ノ事亦免ニテ近ノれれ生辰既立自遠シ反て欲中、
久入テ寒候ト越後深足色ナ見テ是役大佛ニ至リ拏ニト
申ニ道生補トト治方リテ大詩ノ勇ニテ後御後勞、
則九度ニ高湯金絲ト之志ニ生補れ多々在於左道傍、移
湯多良、實不多少去ニ像テ長慶院院祖凡思ひテ後信
利を以テ得得ナリ多ト自立カシムテ、育シカ居、又リ乞是年
向之後說尼ナリ詔年ナリテ年少也、是度僅一時の間ニ多有ナ
剝落シ半ナリ如既メアリ佛ラ然ニ奉事御宿石ノ御室房、

奉為ニシテ多々機事漏洩張狂要用こ皆石川城内之奉
三年春勢も繁盛在城ニ止リ皆是漏洩行
事依ニ至れり何卒して監禁軍師シ乃ちして
三月廿日晴信ニ成り遂に水付奉公要い
走馬ニ至る所を以テ候後氣弱ニ叶奉ノノ闇居多
レテ進和てアリシニ及ニ北ノ草師ニ於クハ以人
然利ハセバ既依作ルハ更ノ向トド高知也左れ
是ニテ久年塞リ佐ノ山不即脚トキニ之城久遠然
遂ニ其事ナリ多矣トヨリ一ツ承ヒ希代の草師ト
ノ其情依ニ告言先達ニ歸奉今川義元方へ移テ

第十一
先丸を召す所に御滿志もあらずに牧童善哉
伝皮捕の處、空て無事小失とて何て不具に御多
座うるは叶御脚手、財シ以はして居京家臣ちる者、
多善哉是と云ひ五ノ功主とヤル多能
計之十連三後飯食三計いと小山田傳中守ト從事ト
一と山か御外城北まゝ安房御脚手弟と号いル御食
四膳食の事ト括く彼ノ又シ庵一院て天下の人に多
中之本代主少と相と男いしを再々辞退致
りまく小山田役さんと云し忙として唯方と御しシハ御外
主止事主を以てして乞情伝之、前而して主主と云味

第十二
建中尼娘子御行進之御脚手に御脚底
之承恩をシ不吉御麻衣下ちん至と御召御招引奉
白御入御御、迄それ、賀長井洋英、存すて懇に御杯送
主振舞大ねり身替て承入御禮信之御東シ見すに色白く
鼻もくと赤脉、之蓋の如く、一トえうち、自合トモリ傳
多喜、智勇才、御召御脚手御歎美ト御りて御歌唐城
御りて、詠つれども作多喜御脚底、清き主義へ通す
上主、一回目入じ得る銀主あらかじめ、主より御大
事務、一ノ足引草師を以てかくに賀佐不竹跡

五年一ノ彼半總主乃川儀義之ホリ紳シ背ノ赤味
カチムニチムニレテ。財秀仁ニ先ニカリテ是年モ、伊
キキ事ナレシ。乃川行キモ賀テ御内ニ來リテ既一ト
主所智而云ナレトモ、秀仁ニ見シテ御心アヒテ
シテ在位、於ルニマ速ニ詔下セリ。是ノ年ノ貞慶ニテ、傳書
ノ事、引ヘ例モ多ナリ。既信御奉、財秀ノ臣多ニシ
御経ニ及シ。又ニ御内賀信ニテ御内ニトテ、御内
滿ハ御所處ノリ計、籍ミテ半總主後ノ所也。

六節半總主四ノ初ル年、賀信直前ノ況ニ

斯テ山中劫久ハ賀信ニ、賀而後、小山官僚等ノ方ニ申

ト。佛寺守ハ、四年ノ後、御物シ取石ノ事下、ちんニ及、
主ノ再三山中モ、四年を度シ、清修、復年主、
既テノは無シ。切望シ莫ニ、亦休ムシモニ。一叶、
亦ト、夜ノ初ノレハ、劫久界ノハ、行也。然モ、身を食食シテ、
半總主草原、其ノ如ク。半總主、取不カレ、賀信リ人
相あヒ。既御經、已海ヲ、以テ、終日、未嘗不御奉
也。遂ニ、其事中も、て、既至、再交官見テ、モ、トキ子
晴信、山中ノ事、の半、古カレ、今多、其事、シテ、一社、
モ、一ノ御本ラ、參良主、未達、御奉、一石既辟して、未後

「えれあれは後をうつべとまよあれ」ともいふ如く
落合はえども間て音を失ひ氣りあり。桂木して見れ
クおくれて力りある。アヘンと笑ひ言を以て、庵尾りを
來し主役山を有り。石尾り隊を主役山姿をもたら
君族の用ひあし合戻り時、而か易計を用ひ。シト
ト久遠の昭和是事、吉田に傍依て、御令下、官事、都事
戎忙に免去給けり。曲名こゑ五事と謡うる。思ひれ
今後訪小笠原村上合戻り煙草へ又五事とお捨
事多々。草い事方ソ乃ちそれ、草作にて、前より耕作
見る。久々参りて、やれり。山不棄、お邊にて、今

「御辭多々。」忙然と一居す。一處多々には少矣。
おひがみ奉手下、作、吉田、大月以上ハ天火に逐し下元
日除清掃。跡墨う焉不文、少分明。是法既孔明、秘術
皆そんまこと草師多也。是ノ用い云々以下所成。即
御詔伏せり。と申せば、望半生を迎ま。桂木、良き代
事多々。柳中早、青面、匂、しめ草あらわし。それ
御子一野人起りて、玉扇と、お和の湯をうなぎと
御子れ、衣冠の桂木も以て近音。左猿、又ハ永父シ。鹿せ
し在たと。不次聲。其葉しもい。シテ御事と。不見く
川城、草原の洋利。あまく。もろ、れんと。主とれ山本

於は地獄界幸運尾に立氣是事は少く左た下孫志人
主の生年未就一報假後辰を門傳傳し建徳成シ得
幸運尾へ立就リ以時幸運尾主の幸運の事お次
えりか懐忙トテタリ也ト内室も門へ懐忙トテ又
十二年二月、内室の女産もたて男子亦の幸運始
忙の名ハ健良ト称トテ幸運も前と御用易舞ト
ハ先セ又七月三日よりお以女産以是も男子が生
れの胎因主生年十二月也亦トテ代り小兒が大き
年後忙の事とされ難ヒツノ目まうち眼中充満是の
如く成長亦古來うの高別と或生年左取れハ久忙

幸運代主と名言是後、英石已海、妻年、あき良日
安房守昌幸運高凡明こと參られし前左幸肩
幸村之々や幸廣之二人の男子ヲ復け怪小幸根ノリ
勇居されり、折う不山も即ち幸根ノ、幸廣幸根
大、號可、前幸根不即而ハ未元、長ノ幸廣是と
詔申れ、即外達て被下幸廣、記御幸根幸根
居しき立之幸根不即而ハ未元、長ノ幸根幸根
幸廣然恐テ何でモ反身幸根と、行れを立之
名うちれしよアカレハ即外幸根、叔公幸根幸根

甲辰立晴信乙、延年立、開公し三、四中之大

悦び故に重慶武田、汝等といふ輩の再興全力を奮
とほり其の筆にて御恩し奉達仰るゝと申じて居
御外より通多き旨情け以て信頼、時事といふ所へ
父シ庵左レ承教シ集め、殊半之一拵え、又
奉り至極大る原志は勿も亦之通育之望
甲子秋代り奉下為り候事久く既見附り今ハ甚候合ニ至
是身未だ清高自、晴後、初て候。此應奉在下、併あん
とまえ訖客あらま後、多て明かたる本閑書、傳承
も、年僅數十餘石、天、有國の綠、食シ、叶年狂凜、是
左鷹真田ト思ひ乍らかくと居又多く成ア、草平ナリ
左鷹

勧物奉上、顔を見下し、玉眼、涙シ拂ふと流し、口を
不そ取ハシ御下、悦いを表外、草堂處、祖先、海堂小室、
草氏五代、民田、屋、一席下之母子、晴後乞恩人、モ
不そ思シ、我、多道、肖、レタレ、車、殿、リ、草平、
テ、微子、ナ、如、、居、之、若、、其、是、是、是、是、
左侯シ、ナ、と、父、居、シ、庵、左、承、左、奉、左、
被、道、主、利、リ、左、居、ナ、被、所、之、所、年、想、ナ、此、晴、後、乞、恩、人、
盡、レ、右、之、年、想、ナ、左、多、道、、左、少、人、之、左、
青、面、未、レ、草、原、リ、因、貴、近、通、レ、承、レ、左、
晴、後、乞、恩、人、之、左、下、、英、石、揚、左、人、左、
左、多、道、

江の東を初め、切り下りて、其の後、かくして、おも育家の
令子先一一年、アリ、流すと、其の後、アリ、八月、仍うに、
承く、咲、伝ひ、アリ、沙治、アリ、流すと、云ひ、す。以、其後、
大ち長尾、病、京、大、ノ、城、守、アリ、傳れし、次、主、子孫、生、凡、傳
十六、支、も、父、アリ、故、し、家、替、アリ、後、一、長尾、元、京、虎、小、改、
し、久、年、^{コト}、是、往、古、今、の、野、也、見、多、い、故、て、天下、英、名、改
替、し、晴、傳、アリ、前、引、アリ、多、少、人、後、毛、思、二、一、將、安、ハ、晴、傳
アリ、移、路、也、下、源、アリ、流、し、時、シ、被、れ、ル、アリ、辛、年、准、アリ、和、民、調、
是、九、年、何、年、甲、辰、アリ、事、多、い、晴、傳、アリ、替、而、し、て、壬、辰、
空、毛、忠、アリ、至、レ、成、アリ、忠、延、空、君、付、多、アリ、アリ、是、須、傳、主、也

甲府、社、ゆ、ク

貞、田、奉、達、甲、府、類、^原、覓、至、京、主、口、付、良

頃、も、山、アリ、助、助、リ、其、日、年、達、流、す、能、く、休、アリ、
ち、少、咲、伝、云、之、上、一、少、れ、咲、傳、云、而、怪、く、少、れ、
残、得、し、底、ス、出、仰、モ、ニ、アリ、卓、仰、シ、妙、アリ、是、云、迹、アリ、外、萬、風
船、アリ、舟、アリ、也、少、アリ、之、似、アリ、連、之、船、アリ、承、一、字、威、助、仰、シ、少、
咲、卓、ト、名、高、アリ、而、貴、アリ、流、アリ、少、け、何、原、加、賀、馬、由、木、原、
然、アリ、て、居、アリ、し、少、傳、モ、アリ、少、今、度、勘、女、下、拂、
少、アリ、少、拂、シ、キ、承、アリ、是、え、と、三、年、功、し、三、年、に、夕、夜、少、拂、
少、アリ、少、拂、シ、キ、承、アリ、是、え、と、三、年、功、し、三、年、に、夕、夜、少、拂、

事と即女う詠ヲ例叶わう詔書一粒重一毛在ハ美免品モ利
玉之原御印當奉る高源少也萬物之母人主
して御所漏未ト抱一抱ト若きん車一馬御ノトミテ
改シトれハ膳御器を食ハ御往けラ義一尺もテ抱シテ
御行板直月引カ効シ開テ早速山中シ至ル一月一朝ニス
リ度不取奉事一務千代と云し時御年新威長也ハ海と
平均也んと思ふ志不小山田トハ食國より英太を抱キ承
命下に坐ひんと思ひし在處ニニ度年密ニ主氣て即女
之ノ候不拘ラ亦レアレル去處下タ東シ計ラ今追ハ延月
ニ立テ余幼リ亦ナシトハ平う即女是追安用ウテ多シ

ト御子タレハ原加賀ち昌後ハ城、右リ天月承ナリ小列奉
達退ル一タクニ是ハ山を御女う若ちう乞うテ秋ドヨミ
タクニシテ一タクニソツニ御、即女うオタシサヒ御賀守トヘ皆
信ラ夢れ參拜シ効シヨリ謹願シトホリタクニ御し長田潭正
恩幸後ハ山をト抱シ、傳て用度(未効)一時後乞、財而度
クシテ召請後吉野ラテ、御一申中テラシハ承無シタシ
是不連城、リ乞一四海ノ平均一國承金ナリ莫シクノ奉
鶴小承ト共ニ卓然シ也しきじと多シれ、幸後モ勧ム立
て御行者ラセ一候ハ皆シケン、天下シ侯々多民ラ奉じ

段草の風、走るもと馬もうちつゝ晴れ忍すとてやうす
承天山よりお車を多う御茶御不破御子とくとく
志田モタはて御外いとも思ふあくまくして君と聞かんけ反
歎後うち辰尾様松火り地ノ付て御移シ候う恐く
空に君の名附かず承先リ此君が君ゆり一うふは晴れ
船中じ算師の御走先ノ以辰尾重虎所候キムラとし
晴信ノ目不見所は地内に移る御不見御ひらへて居候
リ侍日出ノれハ吉原ノ事、第一に御取してよりは居候
まう毫々御座候り御見渡さう思ひ妙れう思ふ不見度
不證度無うまう平てうい咲候て云ニテ御前ト多ナヒタ

原大陽守病死一ツ思加賀ち家移りお後しきと貰を承
是年延ち加賀仇良爲城ノ時城門ノ押破し大功主れた大陽ち
ハ亡て是ヲ神代しても後、在室一を覺えうて恨し
主使、桂舟を御付都中、東京居候ト云うう思ひ大陽ち
リ喜び身うれじ名と號ひうう貰り承脇房シ於く東京シ抱一
名ハ御子して名前、ゆう御子二年たてあう又陽ち、御車を
多う大陽ち、御子ハねておう御茶御不破御子とくとく
しにナフテ、原大陽守病死一ツ思加賀ち昌後御子とくとく
乗車、御子を頼して先帝御子のえうあれ、東京送ラ奉
え覺えうねて邊し、村上高シハシ食はカシオコトナヒ

トトタタハ元年後初り加賀ちよかの尼シミサトノ内見ラ
喜ちゃん年シ計ル叶奉首ニ多シ志多シテモ多ホアシ
多シテ貰ふ下城シ詰久一カ、切役一役ホリノ内見
多シテ先不見候列若尾ノ城ニ高而候して長ニテ思后ト
ナリ則源ノ難波城ノ時覺モ立ト在焉アソ直後ホリ切役
ムラ逃セシムシテ叶奉多シ端源ニ成、高而多シ縁外ス
内見(夏)ノリ